

赤ちゃん誕生祝い金の支給について

今年度は2月末までで、第2子が30人、第3子以降が12人、併せて42人の方に誕生祝い金を贈呈させていただきました。

この後、3月に第2子3人の方に祝い金を贈呈させていただき予定となっていますので、今年度は第2子が33人、第3子以降が12人、計45人で支給額は1,020万円になる見込みです。

灯油購入費助成事業について

去る1月21日に1,252世帯へ申請のご通知を致したところ、2月14日現在で986世帯から申請があり、助成費493万円の支給を行ったところです。

高齢者世帯等除排雪支援事業について

今年度の支援決定世帯は、2月20日現在で544世帯となっています。内訳は琴丘地域が220世帯、山本地域が216世帯、八竜地域が108世帯です。

この内、1月末までで除排雪支援を実施した延世帯は、琴丘地域が602世帯、山本地域が550世帯、八竜地域が235世帯の計1,387世帯で、利用時間数は4,585時間となっており、助成額は490万5,950円となっています。

農林関係について

はじめに、2月13日に三種町農業再生協議会が開催され、平成26年産米の生産数量目標および水稻作付目標の配分方針などが決定されています。来年度の生産数量目標は、1万9,901トンで、本年度と比べて553トンの減となり、慣行栽培の基準単収は、10a当たり570kgで、前年比ではプラス1kgとなっています。これを面積換算にしますと、水稻作付面積目標が3,491.4haとなり、前年比では103haの減少となります。

また、これを当町の全水田面積に換算しますと、数量目標配分率は前年比1.7%減の59.7%となり、転作の配分率は40.3%と、前年より1.7%増加されました。これにより対象農家に対し配分通知を発送しています。

これを受け2月20日から25日までの日程で、全町53箇所を会場に、農業関係集落座談会を開催し、平成26年産米の生産数量の配分方針と、昨年末に示された国の大幅な農政転換の内容である「経営所得安定対策と米政策の見直し」などについて丁寧な説明に努めて、その周知を図っています。

次に、昨年台風18号により被害を受けた農業生産施設の復旧支援についてですが、パイプハウスや農機具等の農業生産施設の復旧に対する被災農家への補助金の決定状況は、農機具17件、パイプハウス5件、合計22件で、国・県・町の総額で189万2千円となっており、2月下旬に被災農家へ支給しています。

また、農地・農業用施設災害については、12月議会定例会でご報告したとおり、農地災害130カ所、ため池や農道等の農業用施設災害145カ所、合計275カ所で被害額4億2,200万円となっていますが、国の査定を受けたところ70カ所が補助災害復旧事業の対象となり、事業費は3億4,430万5千円となっています。補助率は激甚災害に指定されていることから農地が96.1%、農業用施設が99.4%と高率になります。

なお、災害査定の対象とならなかった農家については、三種町災害復旧支援事業費補助金交付要綱により、町が被害確認した地区について、農家自らが行う復旧工事を、直営と請負のいずれも対象にして補助率70%により対応します。

商工観光関係について

DESTINATIONキャンペーン効果については、ホテル等町内観光関係者への聞き取りでは、影響が少ないという結果でしたが、物産販売のイベント参加では成果があったという意見もあり、現状についての検証を行いたいと考えています。

町の関連事業としては、「三種三十六景フォトコンテスト」と、町内事業所協賛の「ちょこっとキャンペーン」を開催しています。フォトコンテストには県内外から、2月末までに100点の応募があり、この後各賞の選考を行う予定です。応募作品についてはポスターやパンフレット等に使用し、今後の町の観光振興に役立てたいと考えています。ちょこっとキャンペーンは、11月1日から1月31日までの開催期間中応募総数が1,822件となっています。これまで3回の抽選会を実施し、当選者に三種町のご当地プレゼント等を発送しています。町内事業所の協力も得られたほか、応募件数とアンケート回答が多く、手応えを感じたイベントとなっています。

また、平成26年度は国民文化祭とアフター・DESTINATIONキャンペーンが開催されますので、よりよい企画となるよう内容を検討します。

次に、三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会の事業については、県の食農観ビジネス重点支援地域形成事業と、農林水産省の食のモデル地域育成事業を活用し、じゅんさいの匠養成講座をはじめ、お菓子や料理開発、じゅんさい物語冊子づくり、ホームページの構築などを進めています。じゅんさいの匠養成講座は、11月より5回開催し、2月14日に認定式を行い、15名のじゅんさいの匠が誕生しました。今後、じゅんさいの魅力を伝える伝道師としての活躍を期待しているところです。

第2回じゅんさい全国会議を、2月22日に秋田市で開催しています。今回は「秋田のじゅんさい」としてより広くPRしようと、北海道から石川県まで4生産地から参加をいただいています。町内からは、三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会会員ほか、JGAP